

島根原子力発電所第2号機 審査資料	
資料番号	NS2-補-027-10-78
提出年月日	2022年10月13日

主排気ダクト及び支持構造物の解析モデルについて

2022年10月

中国電力株式会社

本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。

目 次

1. はじめに	1
2. 解析モデルについて	1
2.1 モデル化範囲	1
2.2 主排気ダクト本体のモデル化方法について	3
2.3 主排気ダクトー支持装置のモデル化方法について	4
2.4 支持装置ー支持構造物部材のモデル化方法について	4
2.5 支持構造物部材のモデル化方法について	5

1. はじめに

主排気ダクト及び支持構造物は、図1-1に示すように、主排気ダクト、支持構造物部材、支持装置から構成されており、それらを連成したモデルにより解析を実施している。

本資料はこのうち、主排気ダクト及び支持構造物の解析モデル化方法について、補足説明するものである。

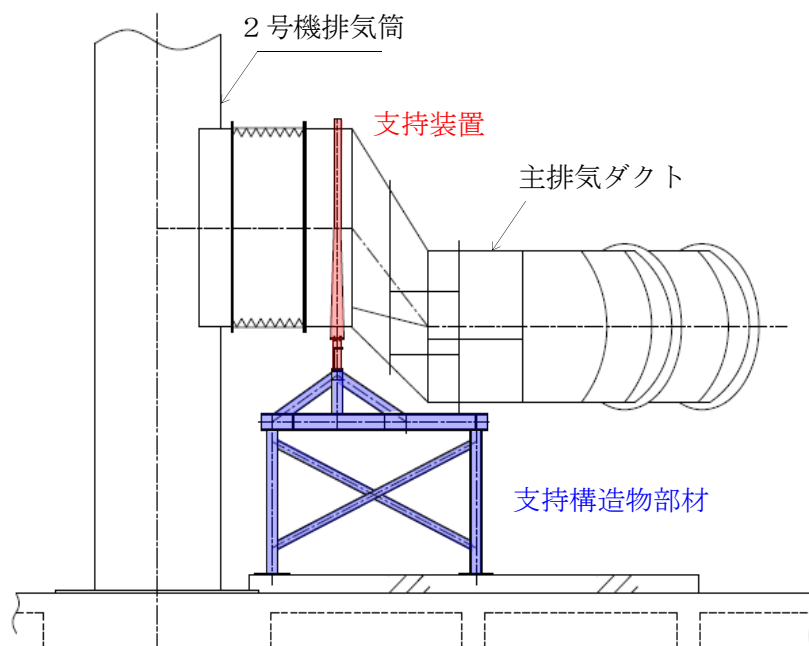


図1-1 概略構造図

2. 解析モデルについて

2.1 モデル化範囲

主排気ダクト及び支持構造物のモデル化範囲は、図2-1に示すように、上位クラス施設である2号機排気筒に対して波及的影響を及ぼさないよう、2号機排気筒及びタービン建物取合いの伸縮継手までとする。図2-2に解析モデル全体図を示す。

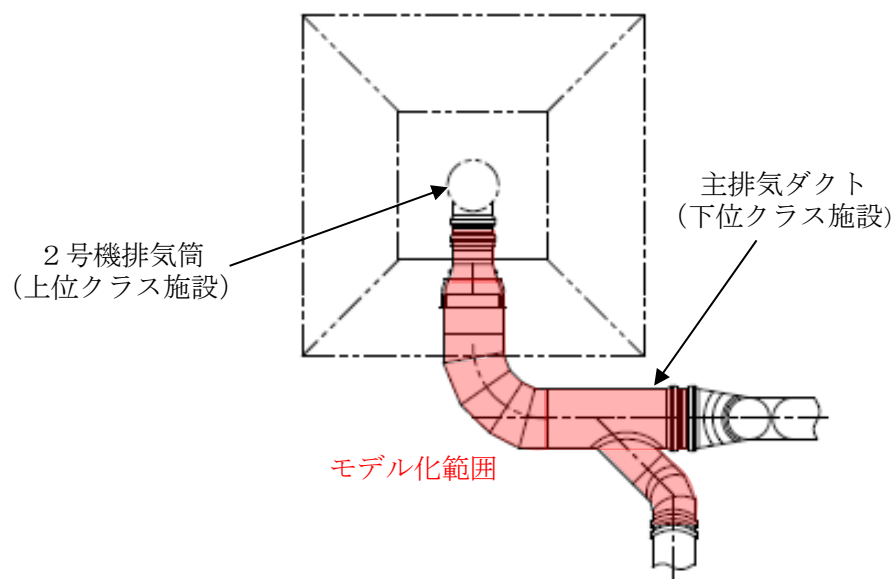


図2-1 主排気ダクトの位置関係図



図 2-2 解析モデル全体図

2.2 主排気ダクト本体のモデル化方法について

主排気ダクト本体は、はり要素でモデル化する。なお、曲管部でえび状の管の部分は、図 2-3 に示す通り、複数の直管でモデル化し、分岐部は母管中心から母管外表面までを含めた範囲を、分岐側のダクト仕様でモデル化する。また、質点はモーメントが大きくなると考えられる点に設定するとともに、代表的な振動モードを十分に表現できるように適切な間隔で設ける。伸縮継手は片持ち形状でモデル化し、先端に伸縮継手の集中質量を付加することで、当該箇所地震応答が大きくなるように保守的な解析モデルとする。



図 2-3 主排気ダクト： $\phi 3818 \times 9.0$ t 曲管部

2.3 主排気ダクトー支持装置のモデル化方法について

主排気ダクト及び支持装置は、図 2-4 に示す通り、全周溶接されている構造のため、剛接合とする。このため、主排気ダクトの中心で発生する荷重が、支持装置及び支持構造物部材のボルト接合部に直接伝わるため、ダクト中心と支持構造物部材のボルト接合部を剛で接続したモデルとする。

2.4 支持装置ー支持構造物部材のモデル化方法について

支持装置及び支持構造物部材は、図 2-4 に示す通り、ボルトで接合されている。ボルト接合部はピン結合としてモデル化する。

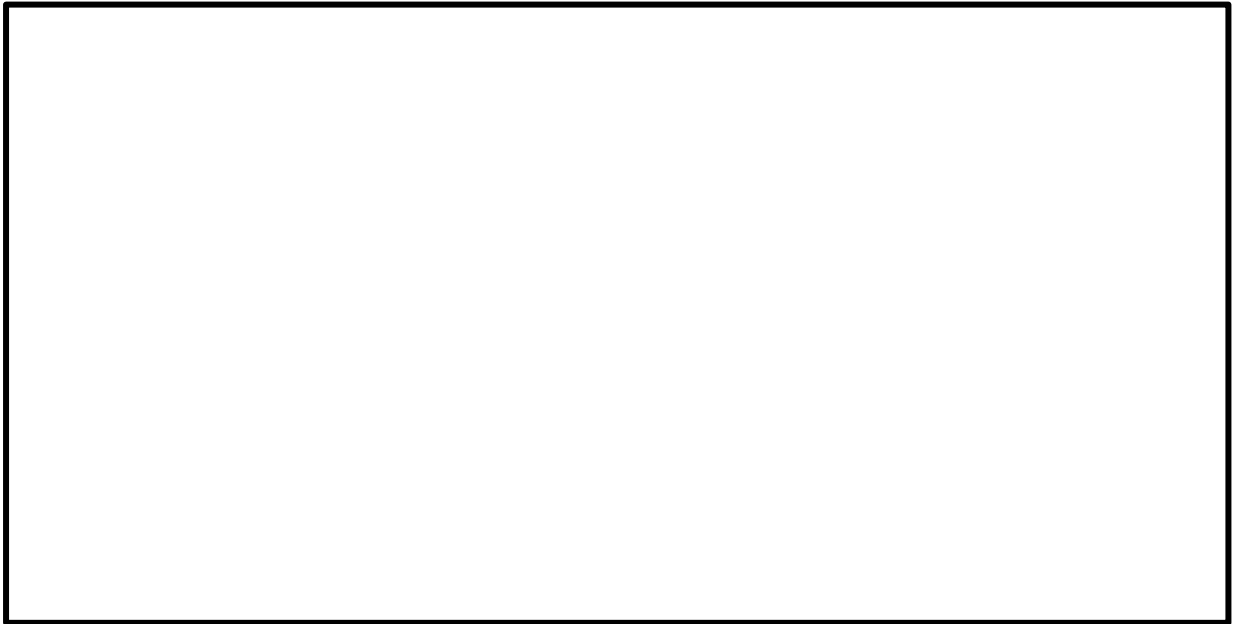


図 2-4 主排気ダクト，支持装置及び支持構造物部材
(例 支持構造物：S-22)

2.5 支持構造物部材のモデル化方法について

支持構造物部材は，図 2-5 に示す通り，鋼材同士を溶接で接合しているため，剛結合とする。また，コンクリート床への取付部は固定とする。図 2-6 に支持構造物：S-22 の解析モデル図を，図 2-7 に支持構造物：S-24 の解析モデル図を示す。

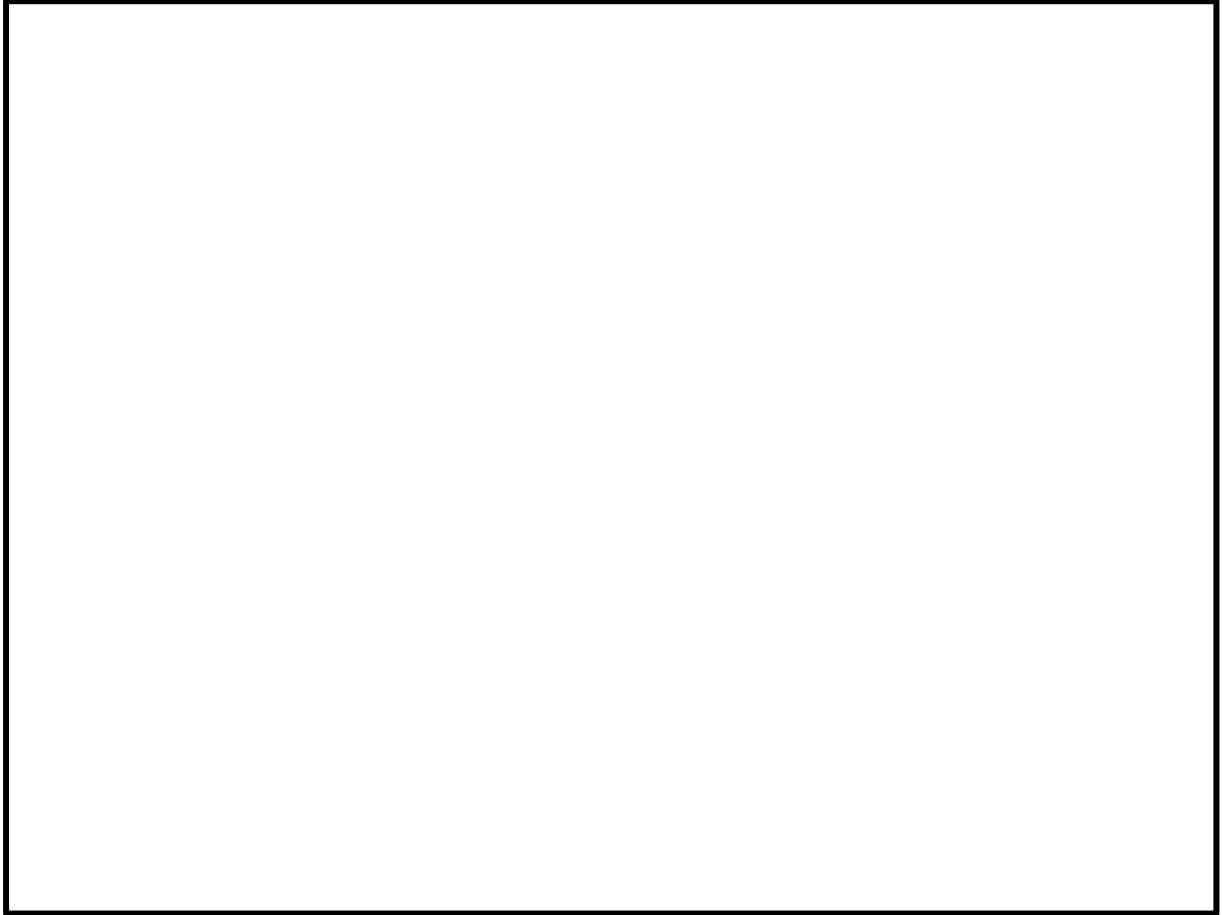


図 2-5 支持構造物部材

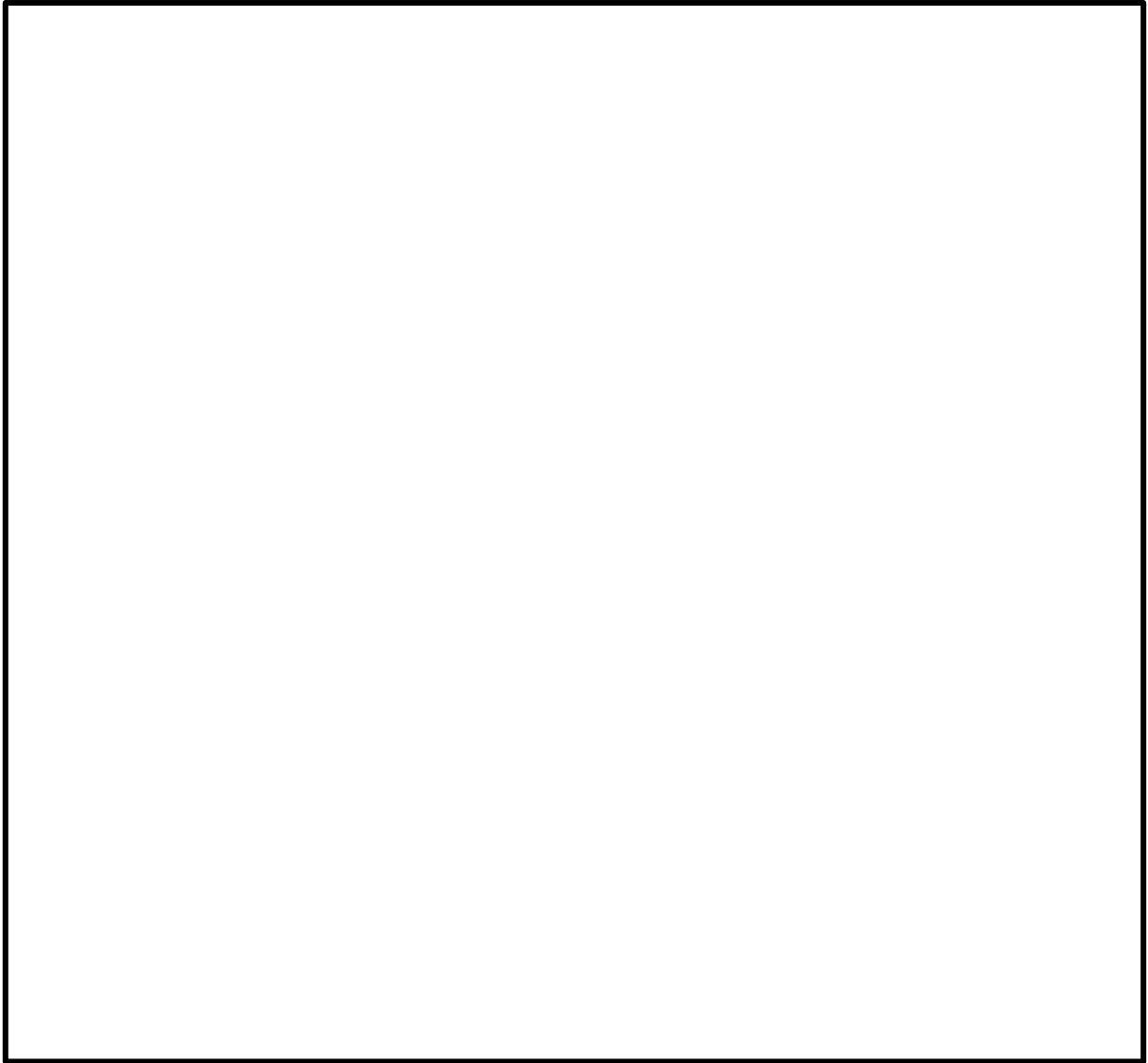


図 2-6 支持構造物：S-22 解析モデル詳細

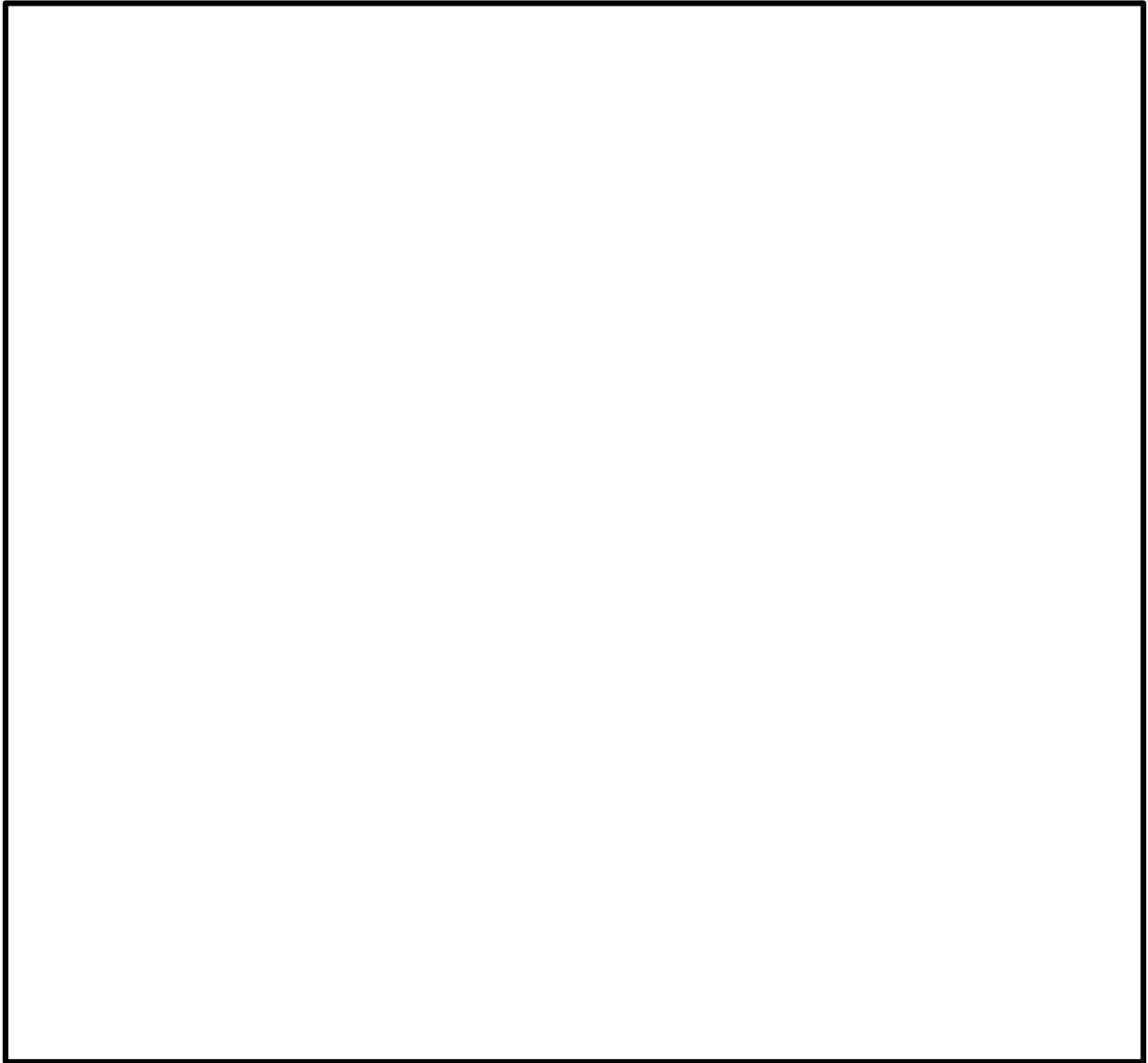


図 2-7 支持構造物 : S-24 解析モデル詳細